

川白煉瓦白煉瓦即耐火煉瓦、製造處併合之於局內製造處。宏擴規模亦多賴君助十八年。瓦斯局廢。而瓦斯公司興。爲其工師長。旣而罹疾辭職。獨督理製造處。後徙之品川。尋改合股公司。今稱品川株式會社者是也。其暇々趨_ニ隆昌_ノ君力居多。二十二年四月七日。疾革遂不起。享年五十有一。葬_ニ芝區二本榎街上行寺塋。配即綾部氏。舉二男三女。男曰繁。公司工師。承家。蓋君既分伯子淳篤之資。執事誠實。而其志成於仲子誘掖。而仲子事業多賴君力。是以仲子夙欲樹碑勤功勞。未及而逝。頃公司諸友胥謀。繼_ニ仲子志。建石於向島須崎里仲子銅像側。屬余銘之。銘曰。

開物成務。無公無私。事兄克友。如墳如篋。才得其用。惟德之宜。人若不信。來觀斯碑。

三島中州曰。金昆玉弟。蓋世罕有。得此碑文。三子功德。益炳耀海內。

土屋鳳洲曰。叙極難。叙之事。平實明的。可謂能手。

内田遠湖曰。綜核事實。辭亦修鍊。無喙可容。

首夏の歌

尾上柴舟

松の影まはらに布ける砂山に夏よと空をあふきみるかな
刈りあけて干したる麥の末に見ゆ黒き緑の一線の山
麥の岡青葉の岡を越えて見る初夏の日にしらけたる海
濱へよりかたらふ聲そのほり来る月ほのかなる青草の岡
打ちけふりくもる夕の青野原風の動けば百合の香をする
ちゝゝゝと千鳥そ渡る下總の夏のうしほの光の上を
初夏のこのうれしさを如何にせむ青草の上に來ては海見る
打ちしきりなけるは雲雀はれゝとあふく大野の空に動かす
黄はみたる麥の畑のところゝへたげわたる初夏の風
こまゝゝとみどりひたせる水溜静に庭は夏めきにけり